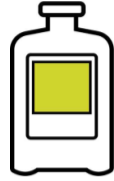
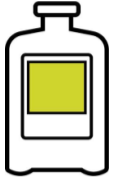
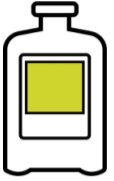





～ 治療スケジュール ～

お薬の名前	1日目	8日目	15日目	16～28日目
●デカドロン	 30分	 30分	 30分	お休み
ゲムシタピン	 30分	 30分	 30分	お休み

治療中の注意点

点滴部位に強い痛みや腫れ、かゆみを感じた場合はお知らせ下さい。

気分が悪い、寒気、動悸、息切れ、顔や体がかゆいなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

起こりやすい副作用

■白血球・好中球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があります。

治療開始後1～3週間頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を行い、白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

■貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつき、倦怠感、息切れ、動悸などの症状があらわれることがあります。

場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

■血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。

血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

■悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療薬や症状に合わせて吐き気止めを使います。

食事や水分がとれない、または、1日4回以上吐いた場合は連絡してください。

⇒食欲がなくても、脱水を防ぐため水分はしっかりとるようにして下さい。また、無理せず食べたいものを食べられる量だけ取るようにしましょう。

■ 倦怠感

治療開始2、4日後にだるい、体が重い、疲れやすいといった症状があらわれることがあります。

⇒適度に休息を取ったり、無理せず安静にしましょう。

■ 発熱

抗がん剤点滴中～点滴後、一時的に熱が出る場合があります。点滴した日の翌日までに出ることが多いです。

⇒必要に応じて解熱剤を使うことがあります。主治医の指示に従って服用して下さい。

■ 血管痛・静脈炎

抗がん剤の刺激によって、点滴中～点滴後に血管に沿って痛みがでることがあります。

⇒痛みや異常を感じたら、我慢せずにスタッフに声をかけて下さい。

■ 肝機能障害

肝臓の働きが低下し、黄疸（皮膚や白目の部分が黄色くなる）や倦怠感が出る場合があります。

そのため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。

お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することがあるので、服用中の方は、医師や薬剤師に相談してください。

■ 間質性肺炎

『発熱』・『乾いた咳』・『呼吸がしにくい』・『少し歩いただけですぐに息切れする』などの症状があらわれた時はすぐに病院へ連絡して下さい。

⇒ごくまれではありますが、早く治療を開始しなければならない副作用です。

！ 連絡をいただきたい症状！

- 38℃以上の発熱があるとき。
- 食事や水分をとれないほどの吐き気や嘔吐があるとき。
- 1日7回以上の下痢があるとき。
- 乾いた咳が続く、または息切れを感じる時。（間質性肺炎）